

令和6年度 和歌山大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）

第一次入学試験問題・解答用紙 [小論文] (3枚の中の1)

受験番号

コース：特別支援教育コース

※

問題

以下の文章は、中央教育審議会初等中等教育分科会が2012年に発表した「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」から一部抜粋したものである。

インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。（中略）～といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。

文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」、2012年

（問1）

文部科学省が、インクルーシブ教育システムで用意する必要があるとした「連続性のある「多様な学びの場」とは何か答えなさい。

（解答）

令和6年度 和歌山大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）

第一次入学試験問題・解答用紙 [小論文] (3枚の中の2)

受験番号	
------	--

コース：特別支援教育コース

※	
---	--

(問2)

「連続性のある「多様な場」」を用意するうえで必要な視点及び対策等について、あなたの考えも含めて答えなさい。

(解答)

(スペースが足りない場合は、次のページを使用しなさい。)

コース：特別支援教育コース

【出題の意図】

(1) 義務教育段階における「連続性のある「多様な学びの場」」として、①通常学級（「ほとんどの学級を通常学級で対応」「専門家の助言を受けながら通常学級」「専門家を配置して通常学級」）、②通級による指導、③特別支援学級、④特別支援学校がある。これらを含んで答えることを期待する。

(2) 設問を理解したうえで、「連続性のある「多様な学びの場」」の連携、交流及び共同学習、子どもの学びの保障、カリキュラムマネジメント、個別の指導計画や個別の教育支援計画の活用、教員の専門性、ライフステージを見通した支援、特別支援学校のセンター的機能などについて取り上げ、自身の考えを含め、論理的に説明できることを求めて出題した。